6　学校質問調査結果から見える学校の取組状況

ふくしま学力調査では、児童生徒質問調査に加え、学校質問調査も行っています。ここでは、令和６年度調査から令和８年度調査までの３年分の回答状況を基に、児童生徒の学力向上、教員の授業改善に向けた学校の取組状況について整理しています。県全体の結果と自校の状況を比較し、今後力を入れたい取組や改善を図りたい取組などを考える参考にしてください。

なお、学校質問調査は、昨年度の状況について回答していますので、グラフは令和５年度から令和７年度までの取組の経年推移となっています。また、無回答については含めていないため、グラフの数値が 100%にならないものもあります。

(1)学校・教職員の学力向上に向けた取組状況

○　小学校において校長が「ほぼ毎日」授業を見て回る割合が継続して伸びている（82.1%から 85.1%）ほか、小・中学校共に校長による教職員間での話合いへの働きかけや研修の奨励のもと、学級・学年運営の課題などを全教職員で共有して組織的に対応する取組が定着・進展している。

●　児童生徒の学力の現状把握と分析を行い、課題把握を「よく行った」と回答した割合が両校種ともに３年連続で下降傾向にある。データに基づく分析や課題明確化の取組のさらなる充実が求められる。

◎　データに基づく学力の現状把握と課題分析を再度強化することが重要である。(①②③④⑤⑦⑨など)

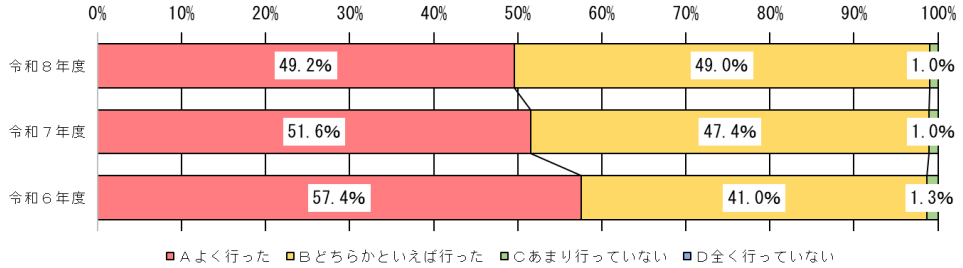
◎　教員同士の対話を増やし、相互研究や研修成果を共有・活用することが授業改善につながる。(⑥⑦⑧⑨⑭⑮など)

◎　児童生徒の自己肯定感とキャリア意識を高める取組が学習の目的意識を高め、主体的な学びにつながると考えられる。(⑪⑫など)

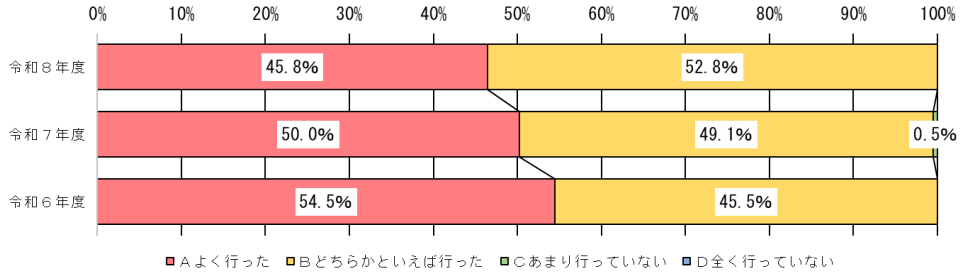
◎　重点化した目標に対する具体的行動や組織的取組を明確にし、学校全体で共通理解の基に取り組むことが重要である。(②③④など)

①『児童生徒の学力について、現状把握と分析を行い、課題を把握しましたか』

小学校

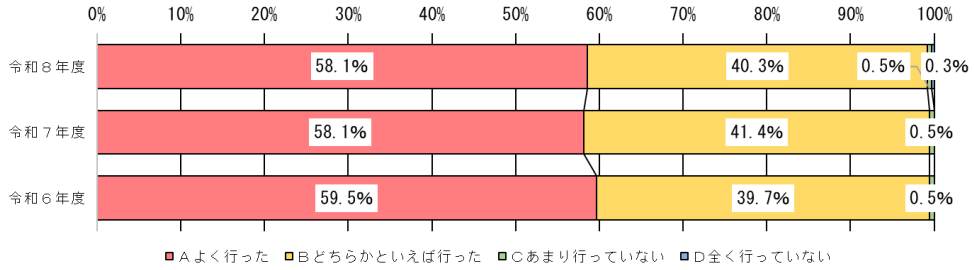


中学校

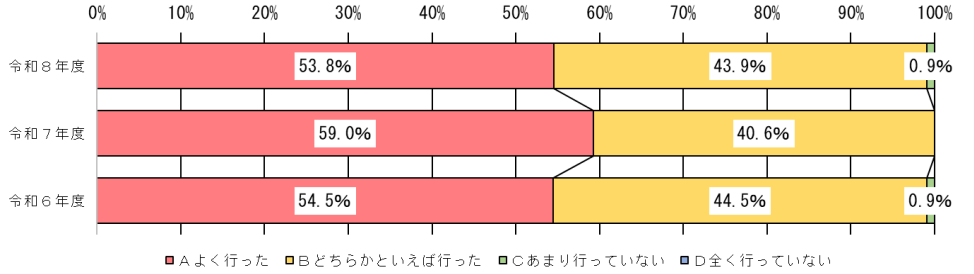


②『授業改善の必要性について、共通理解を図りましたか』

小学校

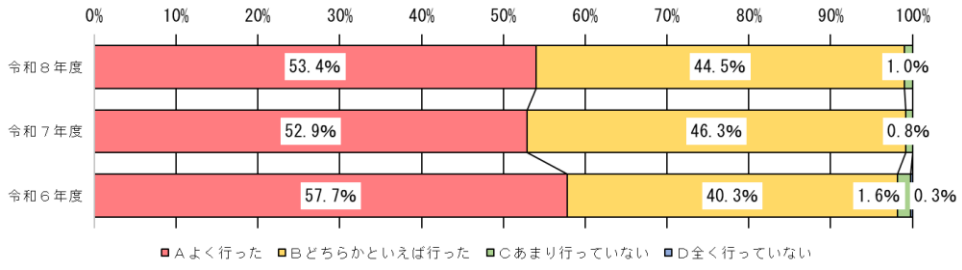


中学校

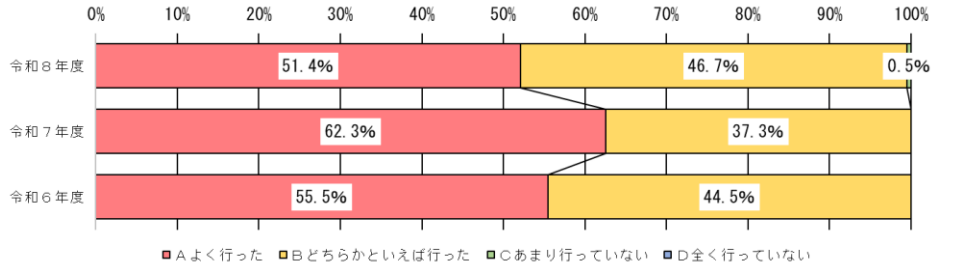


③『学校の課題を明確化した上で、目標を重点化しましたか』

小学校

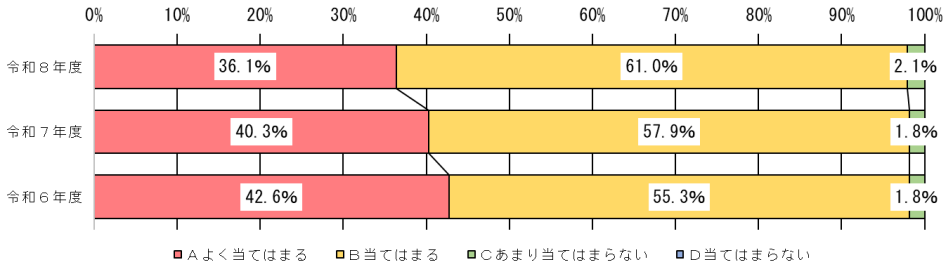


中学校

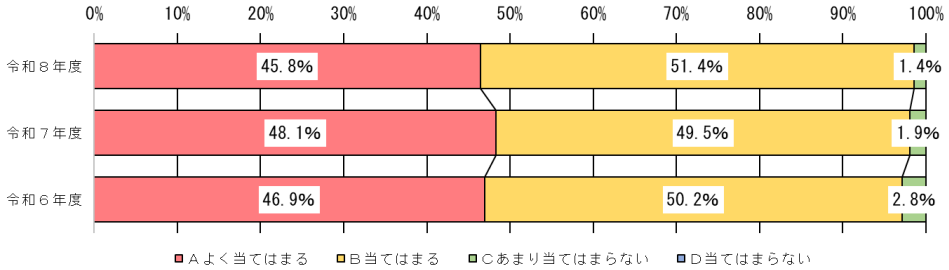


④『目標達成に向けて、学校の組織的な取組や教職員の具体的な行動が示されていましたか』

小学校

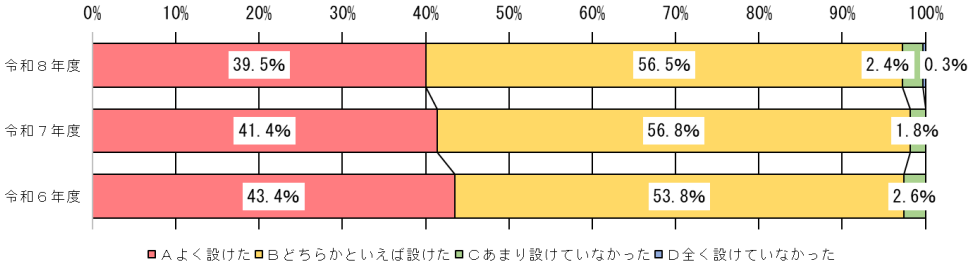


中学校

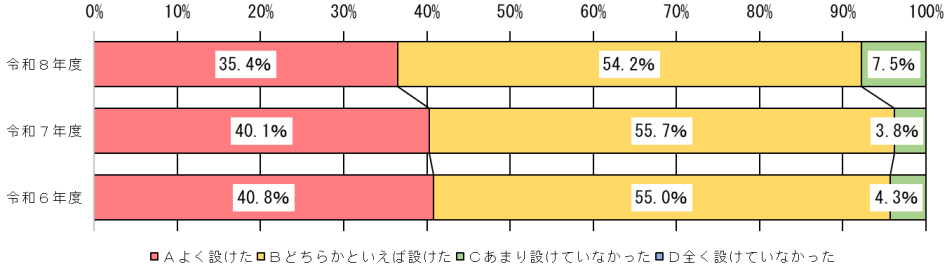


⑤『学校の現状・分析・課題等について、教職員の間で話し合う機会を設けましたか』

小学校

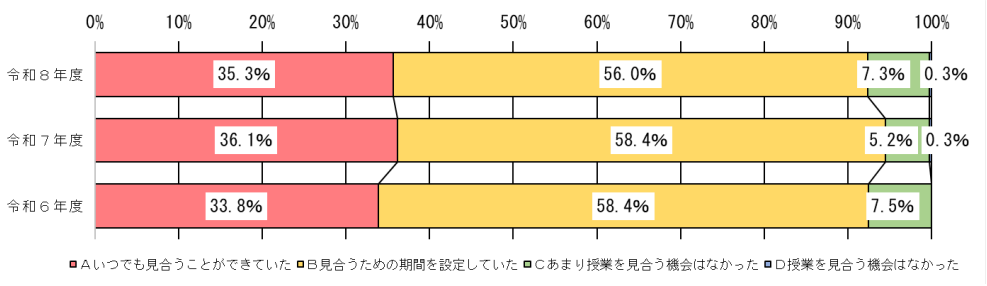


中学校

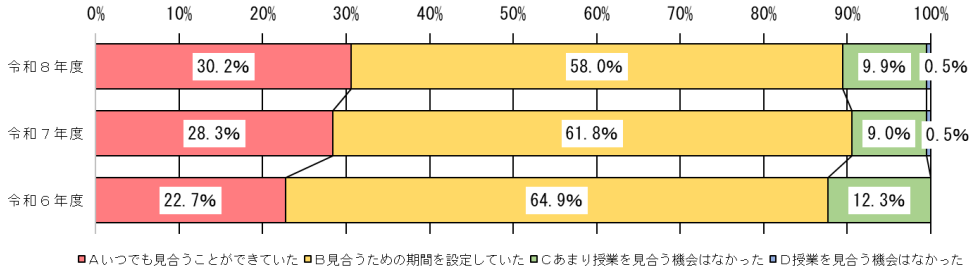


⑥『校内で教員同士が授業を見合う機会はありましたか』

小学校

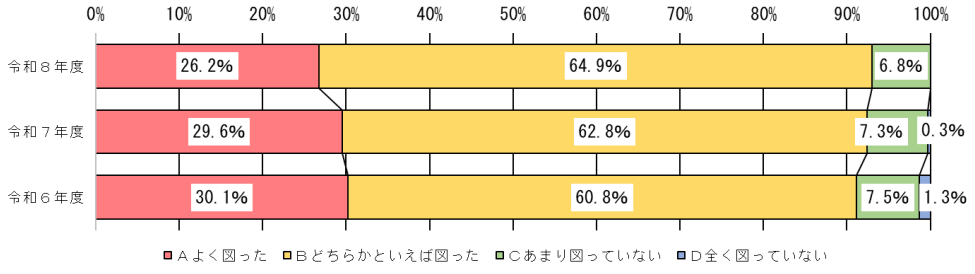


中学校

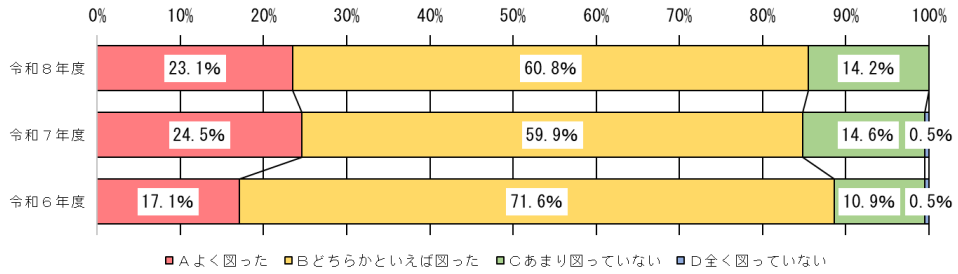


⑦『教科等を相互に関連付けて思考力、判断力、表現力等を育む指導について、教職員で共通理解を図りましたか』

小学校

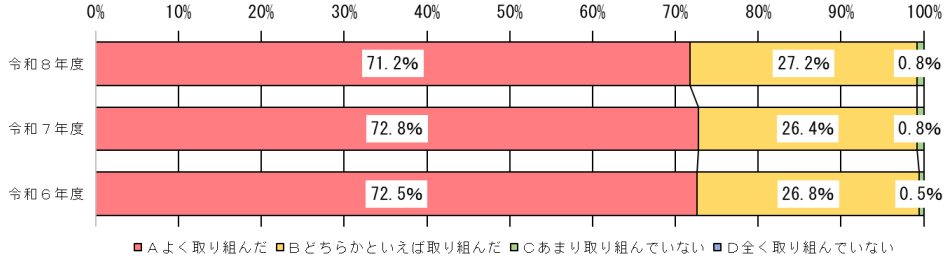


中学校

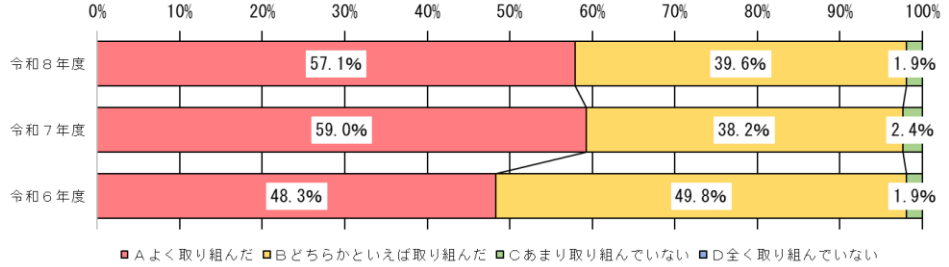


⑧『教職員は、授業研究に意欲を持って取り組んでいましたか』

小学校

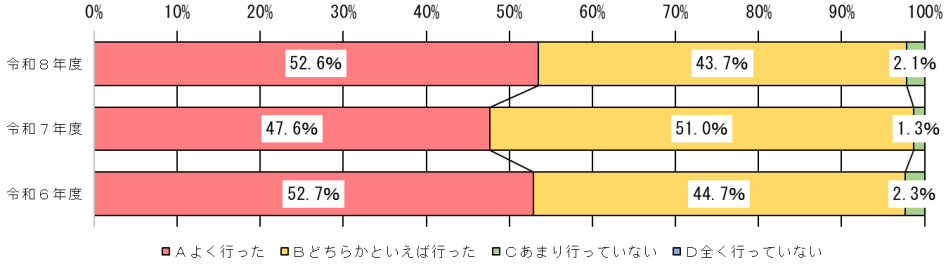


中学校

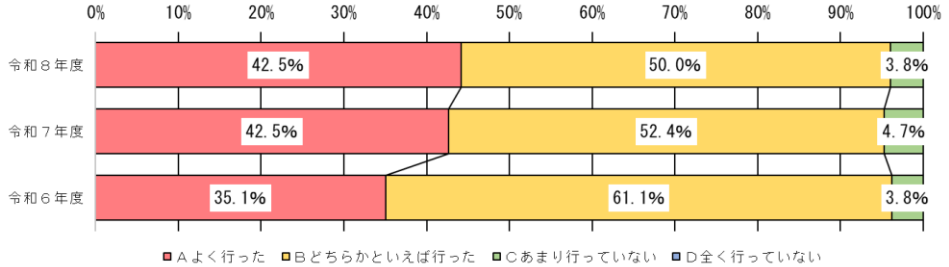


⑨『教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていましたか』

小学校

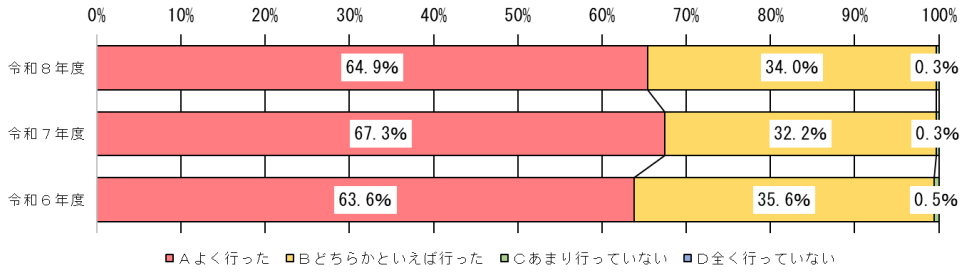


中学校

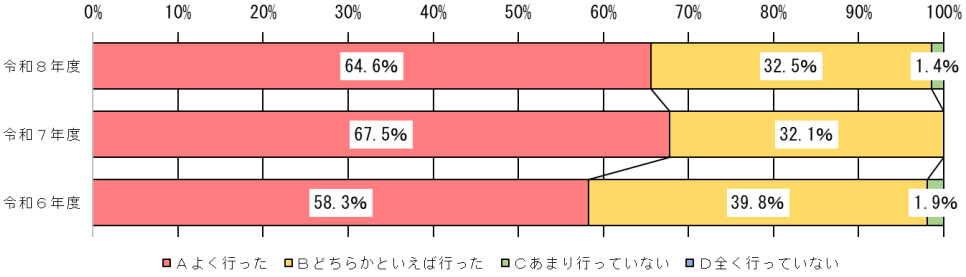


⑩『学級・学年運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組みましたか』

小学校

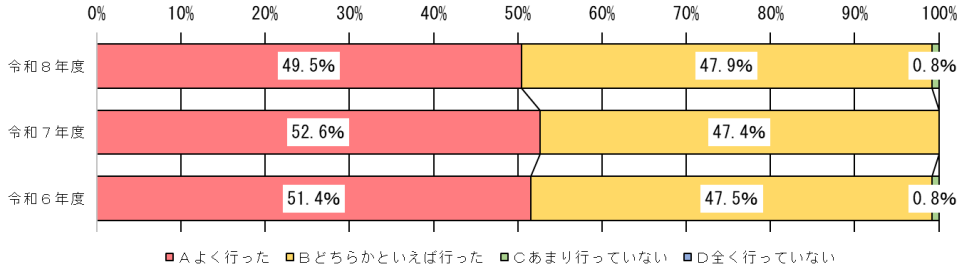


中学校

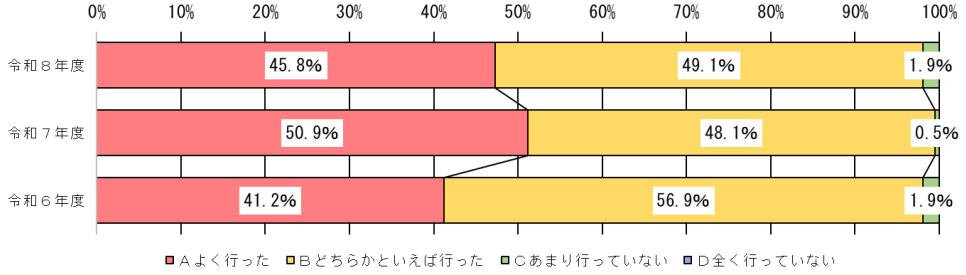


⑪『児童生徒に対して、自分のよさや成長を実感させるような具体的な活動を行いましたか』

小学校

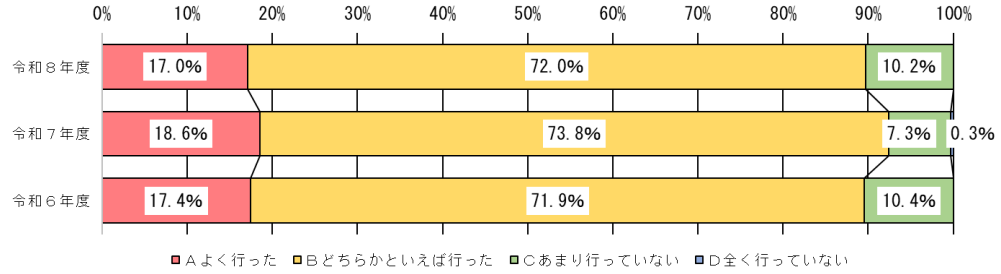


中学校

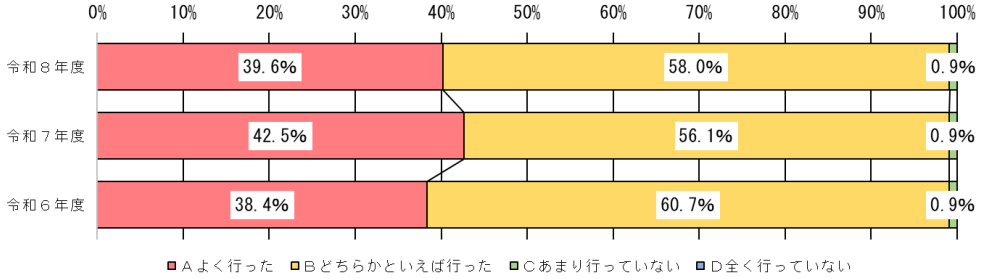


⑫『児童生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせるような具体的な活動を行いましたか』

小学校

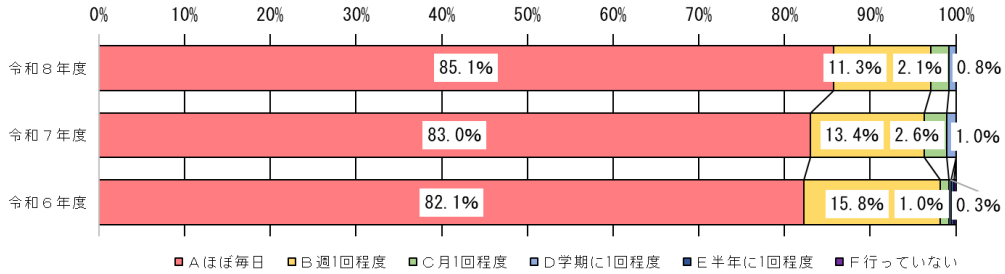


中学校

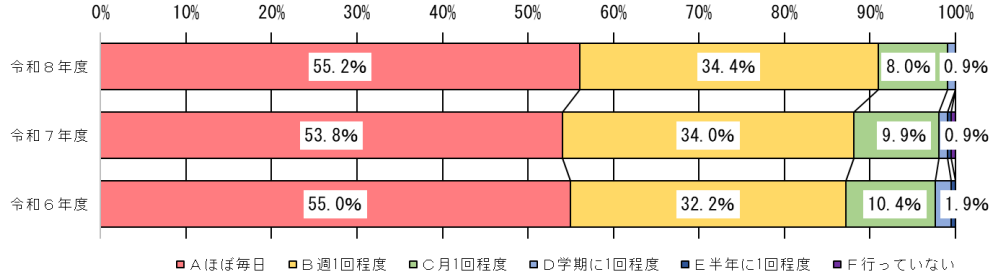


⑬『（校長として）教員の授業の様子をどの程度見てまわりましたか』

小学校

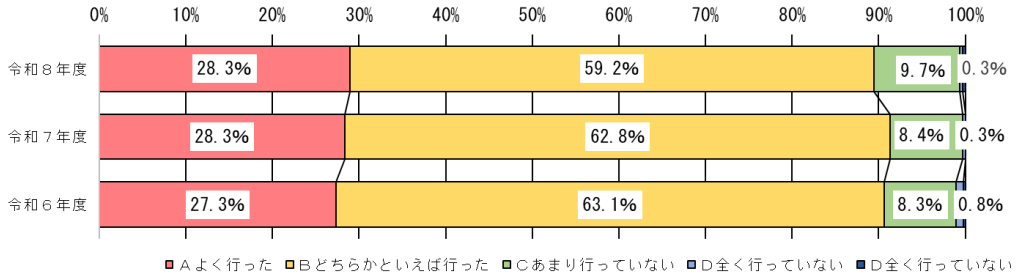


中学校

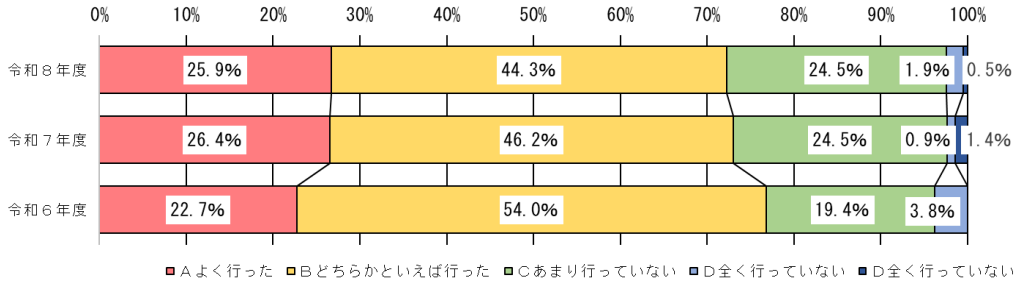


⑭『（校長として）授業改善をするために、教員間で話し合うような働きかけをどの程度行いましたか』

小学校

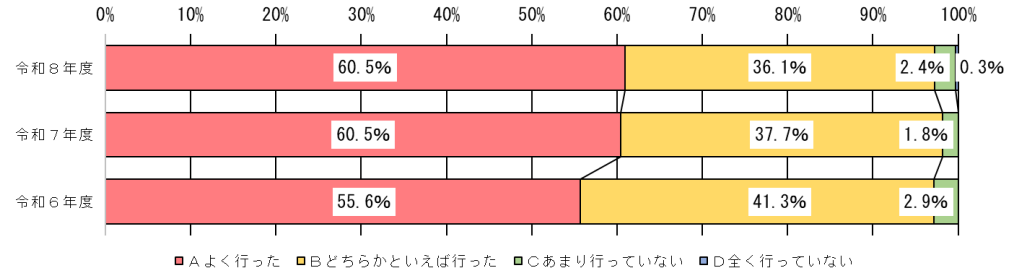


中学校

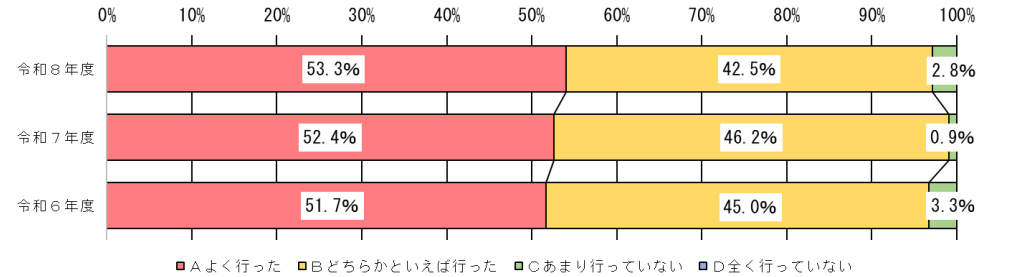


⑮『（校長として）校外での研修の参加を奨励しましたか』

小学校

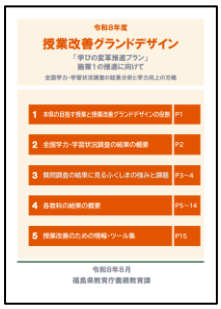


中学校



(2)令和8年度の小学校6年生、中学校3年生に対する取組状況

県では、８月に令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を「授業改善グランドデザイン」として公表しました。今回の調査対象であった小学校６年生と中学校３年生の取組をピックアップし、ふくしま学力調査の学校質問調査回答結果から見ていきます。小中学校の取組状況の違いにも着目して御覧ください。



※授業改善グランドデザインは県教育委員会 HP に掲載されています。
URL：https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/759134.pdf）

○　ほとんどの学校で、家庭学習の課題を計画的に与える取組が継続的に行われている。
○　家庭学習の課題についての評価・指導が計画的かつ継続的に行われている。
●　児童生徒の勉強に対する熱意がやや低下してきている傾向にある。

◎　児童生徒が熱意をもって主体的に学習できるように、小中連携を重視した授業研究を行っていくことが重要である。家庭学習で取り組む内容については、画一的な課題を与えるだけでなく、児童生徒が自らの学びを調整する機会を設け、教師が適切に評価しながら意欲を引き出していくなどの工夫が求められる。（①③④⑤⑥）
◎　学習規律の確保については、生徒指導の機能を生かした一貫した指導方針のもと、組織をいかした確実な指導の実施と、研修を含めて早期対応が大切である。（②）

【国語の状況について】
○　発達段階に応じて、児童生徒に理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導をしている。
○　中学校３年生について、理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導の割合が年々増加している。
●　現中学校３年生に対する補充的・発展的な学習を行う時間がやや減っている。

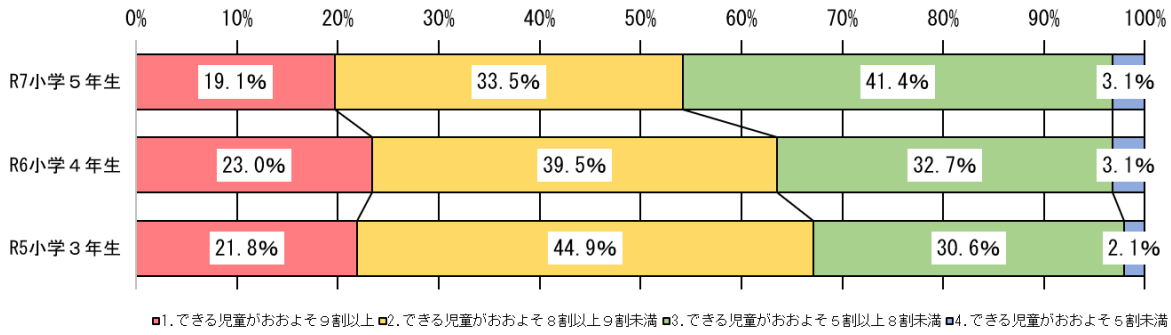
◎　どの学年においても、ふくしま学力調査を基に一人一人の実態を分析した上で、今後も補充的・発展的な学習を計画的に取り入れる必要がある。（⑦⑧）
◎　授業において根拠や理由を基に、自分の考えを書かせたり、話したりする力を育成するための指導が日常的になされている。（⑩）

【算数・数学の状況について】
○　国語に比べ、補充的・発展的な学習を行う時間を確保する学校の割合、習熟の早い児童生徒に対する発展的な内容を扱った指導の割合がやや大きい。
○　どちらの学年においても、理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導の割合が年々増加している。

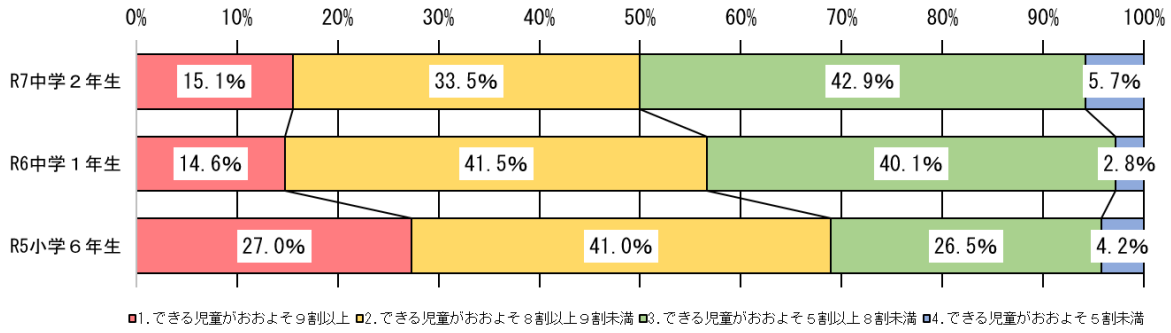
◎　習熟の早い児童生徒への発展的な学習、習熟が遅い児童生徒への補充的な学習について、今後も教科の特性を生かして、計画的に取り入れていくことが求められる。（⑦⑧⑪）
◎　根拠や理由を基に、自分の考えを書かせたり、説明したりする表現力を育成するための指導がなされている。（⑩）

①『児童生徒は熱意をもって勉強することができていましたか』

R8 小学校６年生

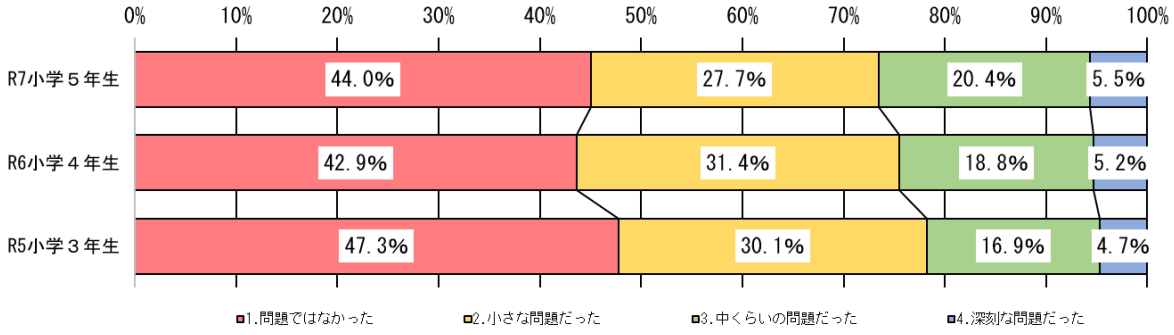


R8 中学校３年生

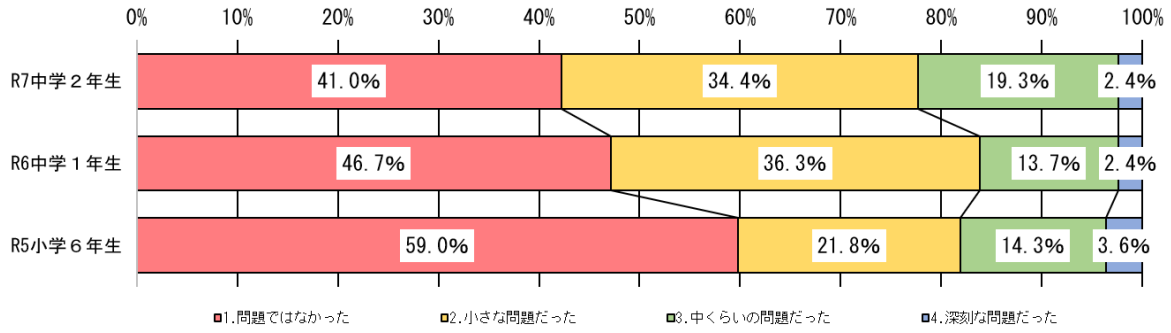


②『学習規律の確保がどのくらい問題になっていましたか』

R8 小学校６年生

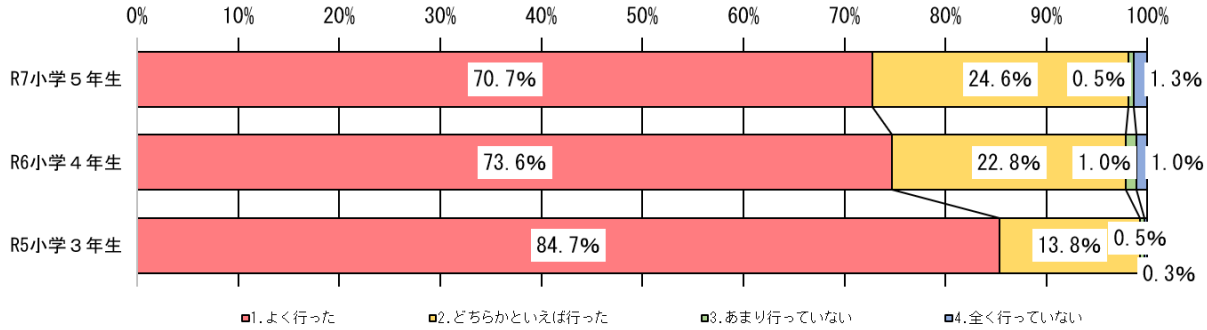


R8 中学校３年生

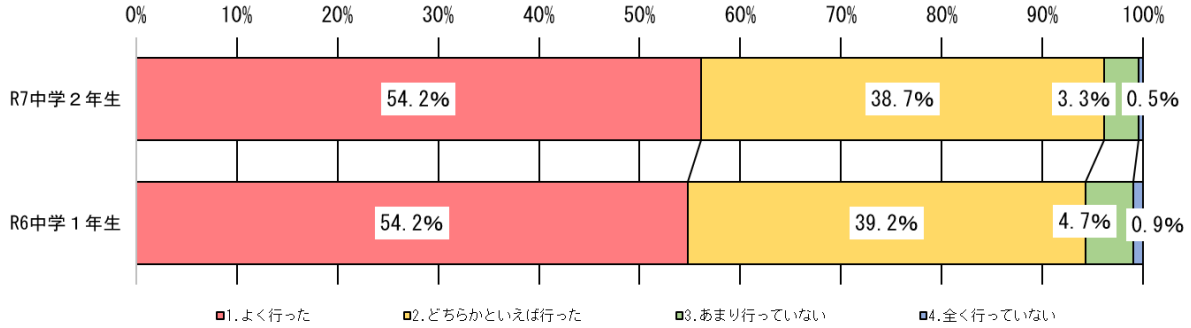


③『家庭学習の課題（宿題）を計画的に与えましたか』

R8 小学校６年生

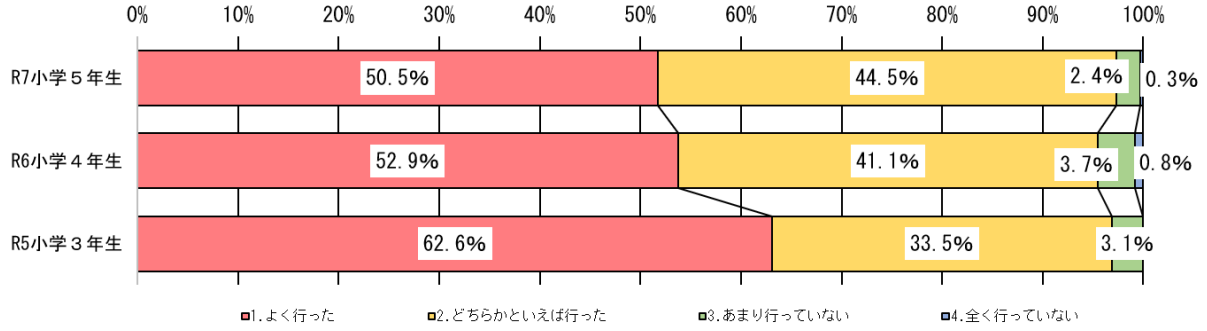


R8 中学校３年生

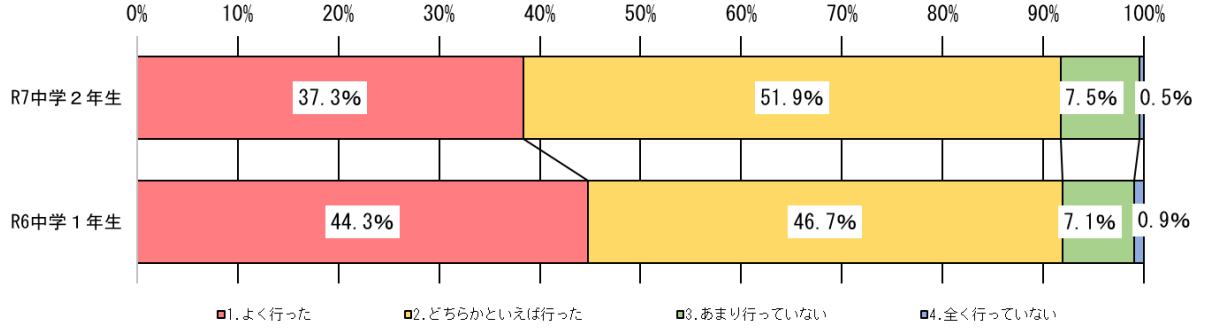


④『与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除きます）についての評価・指導を計画的に行いましたか』

R8 小学校６年生

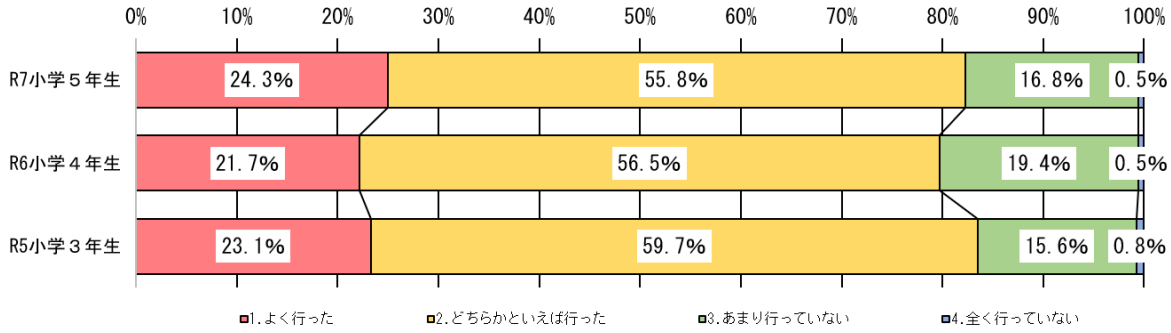


R8 中学校３年生

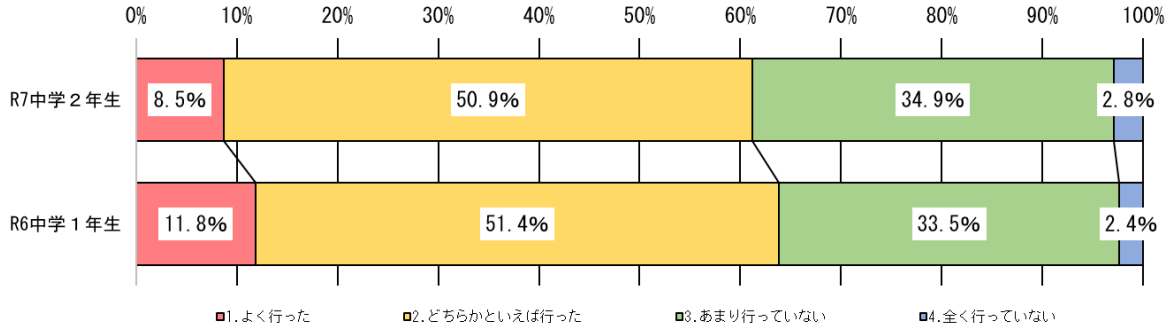


⑤『家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする課題（宿題）を与えましたか』

R8 小学校６年生

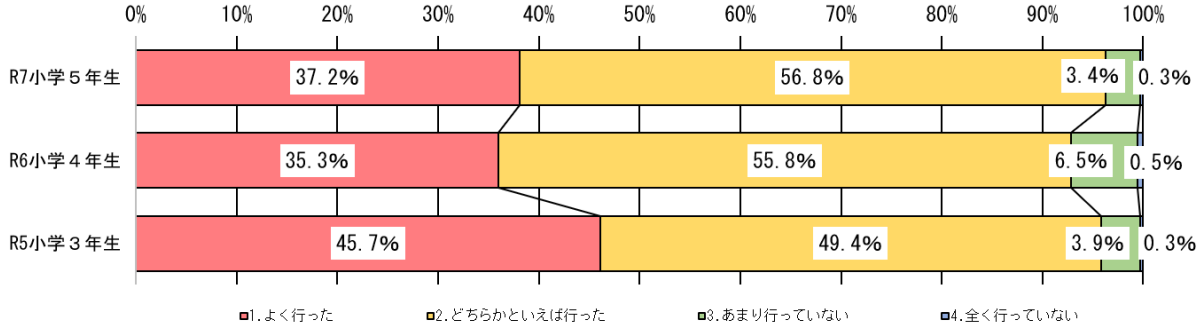


R8 中学校３年生

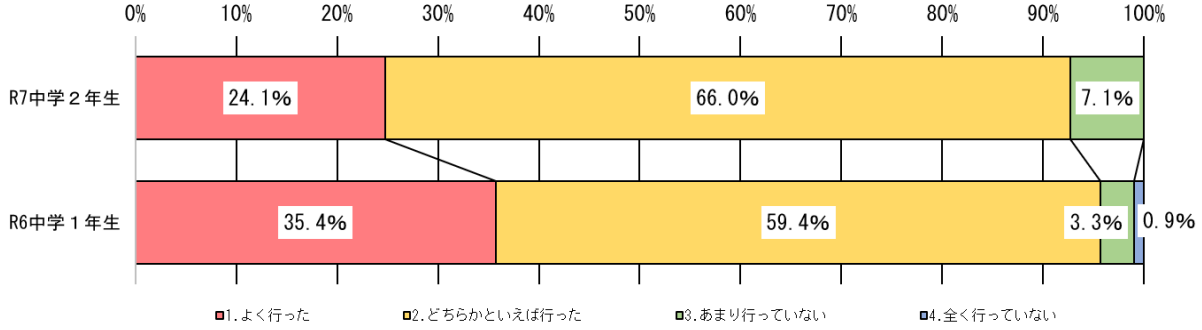


⑥『家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体的な例を挙げながら教えましたか』

R8 小学校６年生

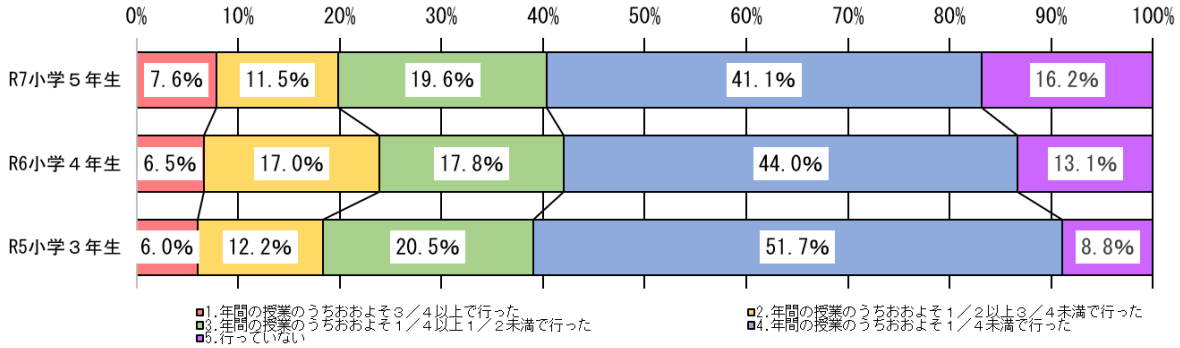


R8 中学校３年生

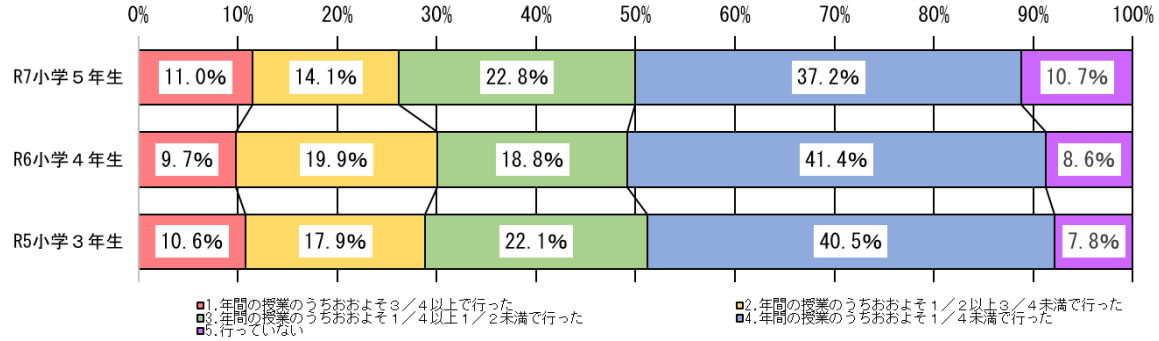


⑦『補充的な学習の指導を計画的に取り入れましたか』

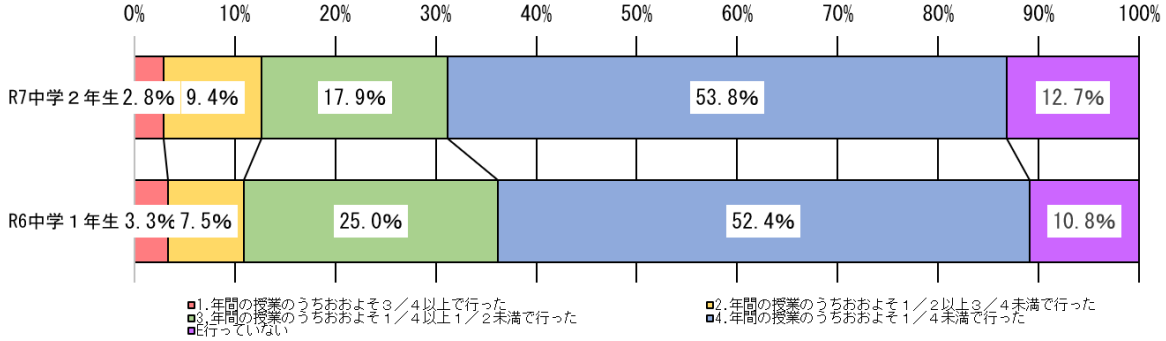
R8 小学校６年生 国語



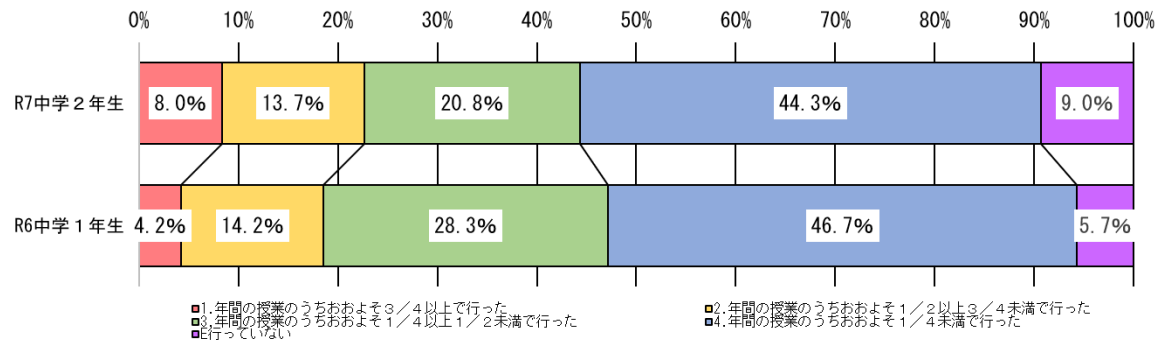
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

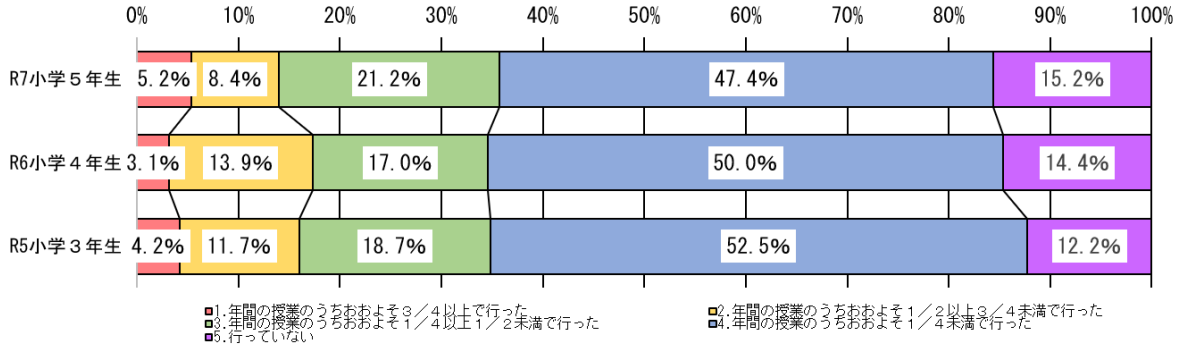


R8 中学校３年生 数学

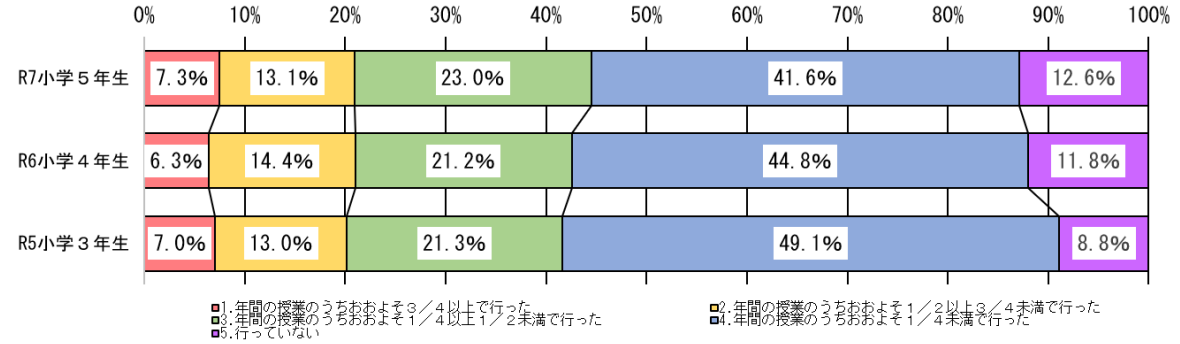


⑧『発展的な学習の指導を計画的に取り入れましたか』

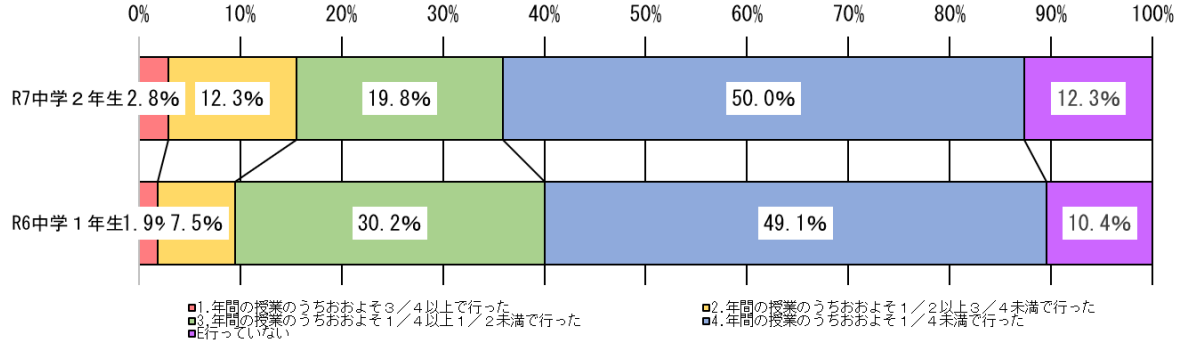
R8 小学校６年生　国語



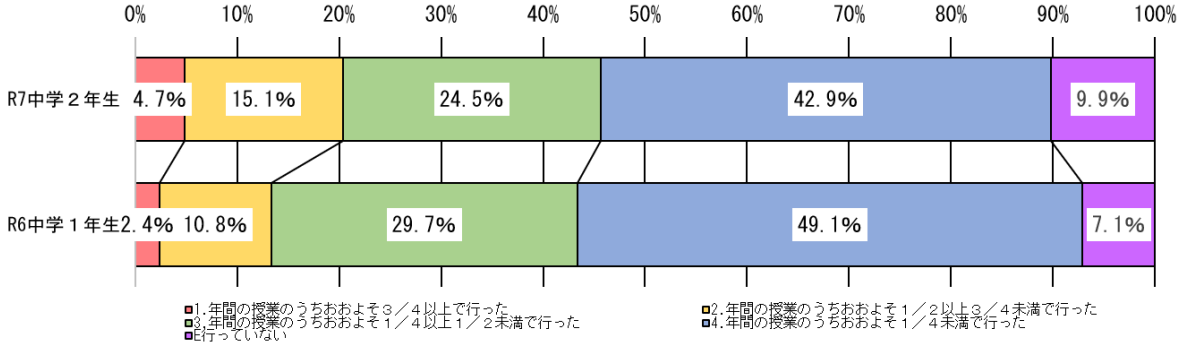
R8 小学校６年生　算数



R8 中学校３年生　国語

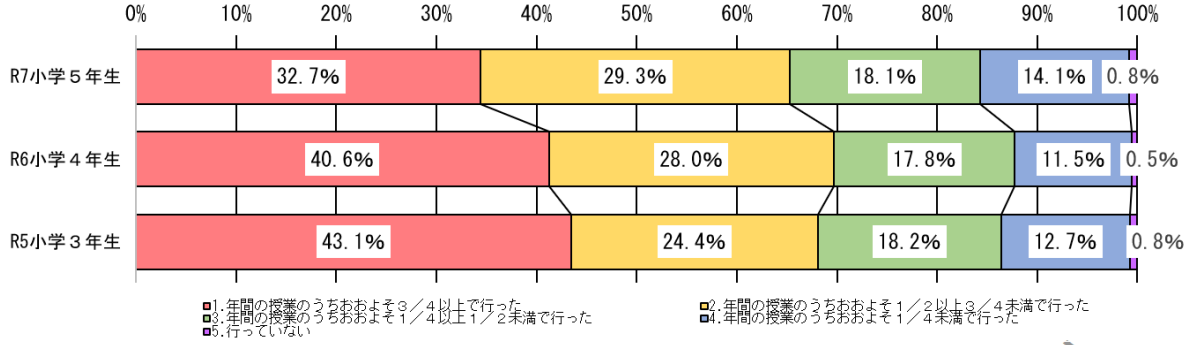


R8 中学校３年生　数学

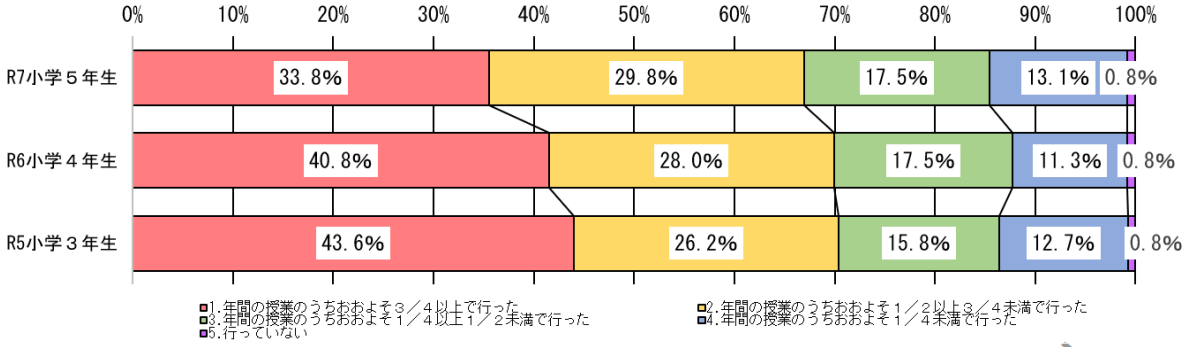


⑨『学習方法（ノートの取り方、間違ったところを振り返って学習すること、目標・計画の立て方、自分をやる気にする方法など）に関する指導を行っていましたか』

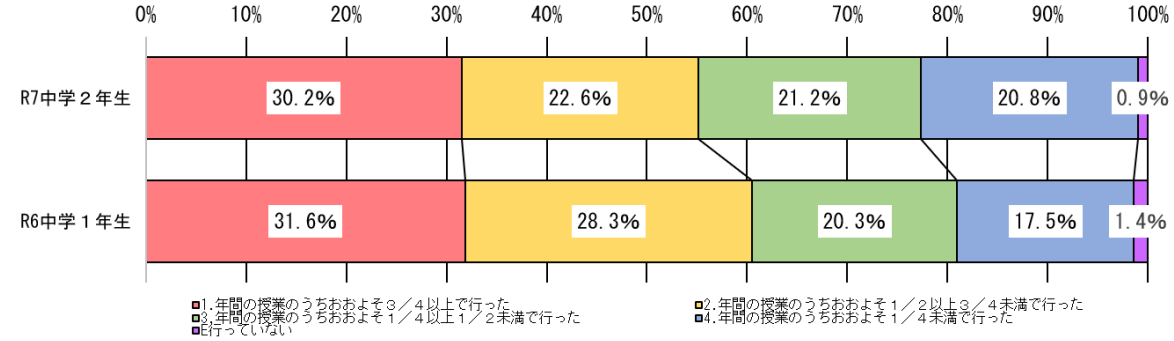
R8 小学校６年生 国語



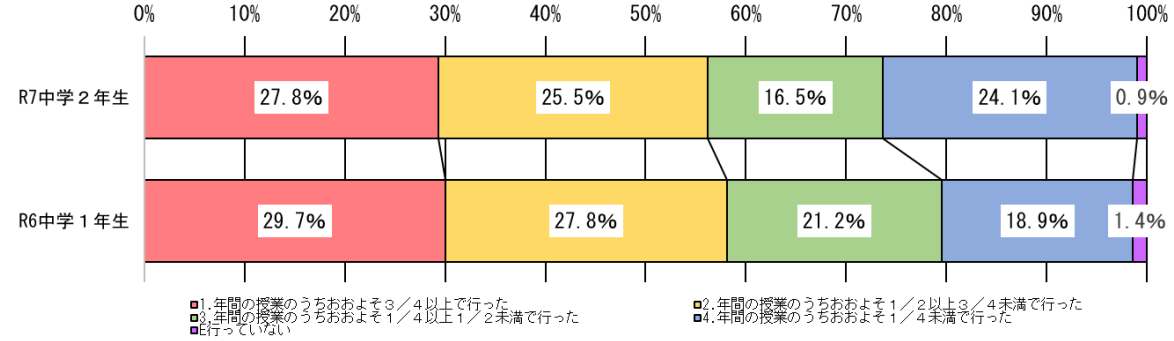
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

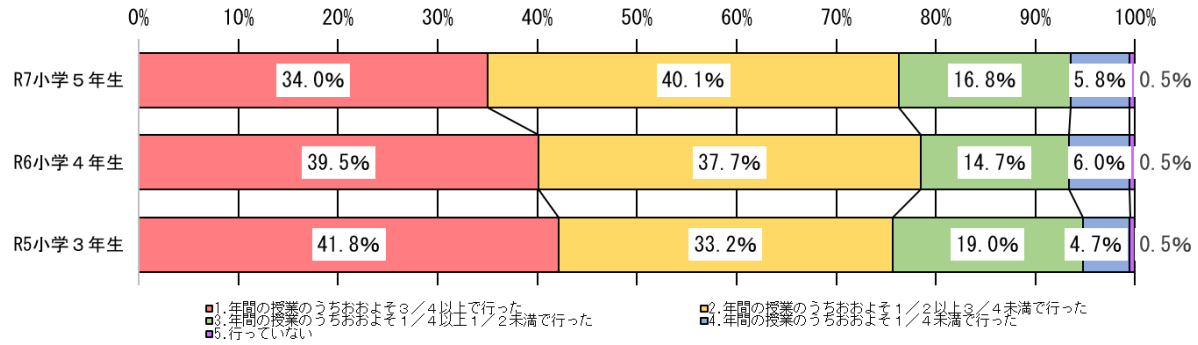


R8 中学校３年生 数学

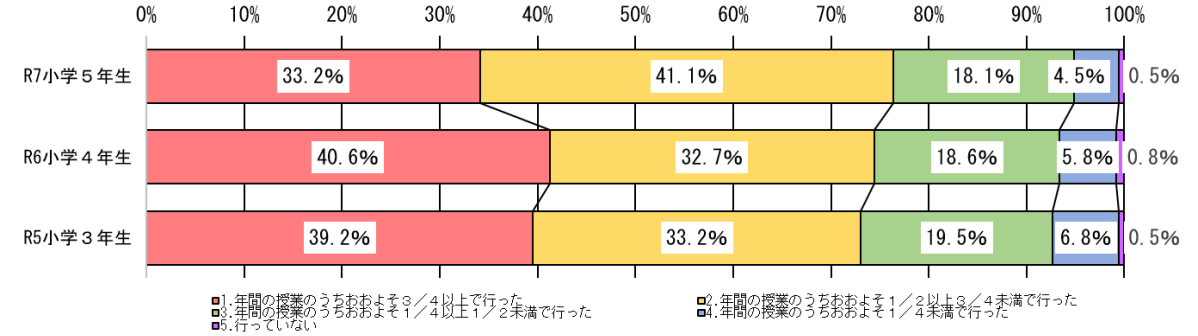


⑩『児童生徒に理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導を行っていましたか』

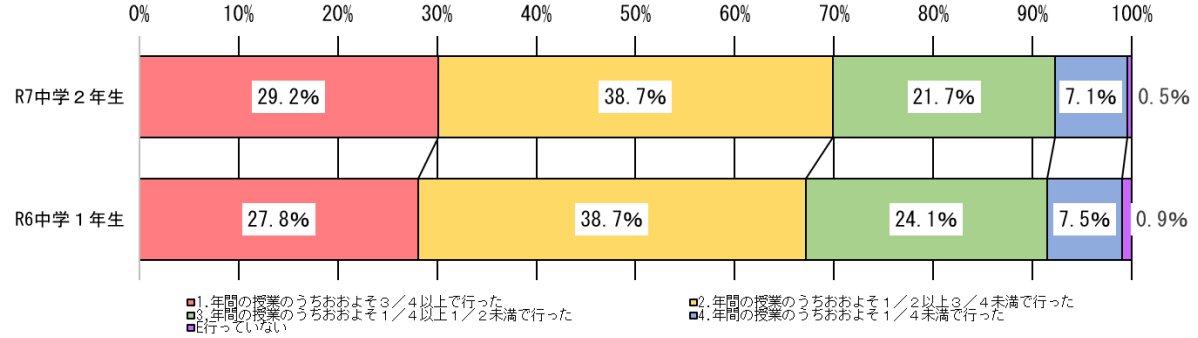
R8 小学校６年生 国語



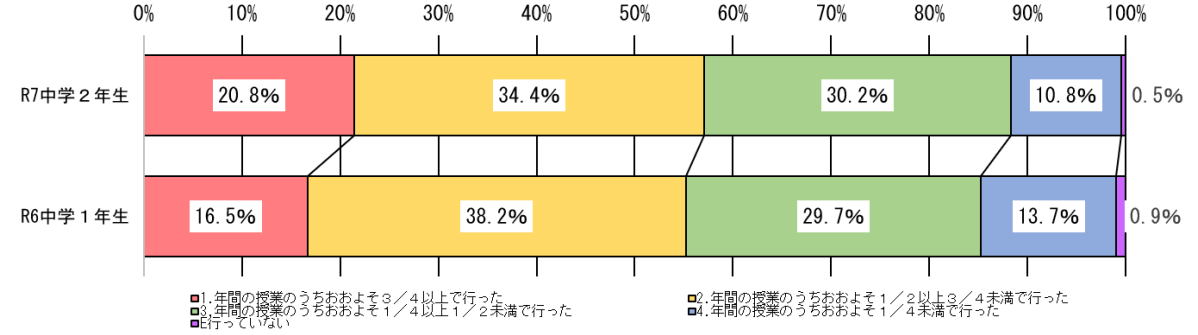
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

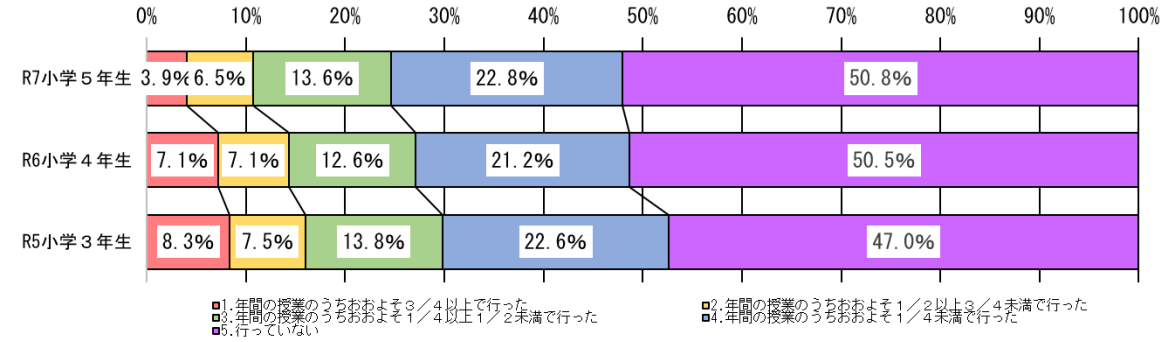


R8 中学校３年生 数学

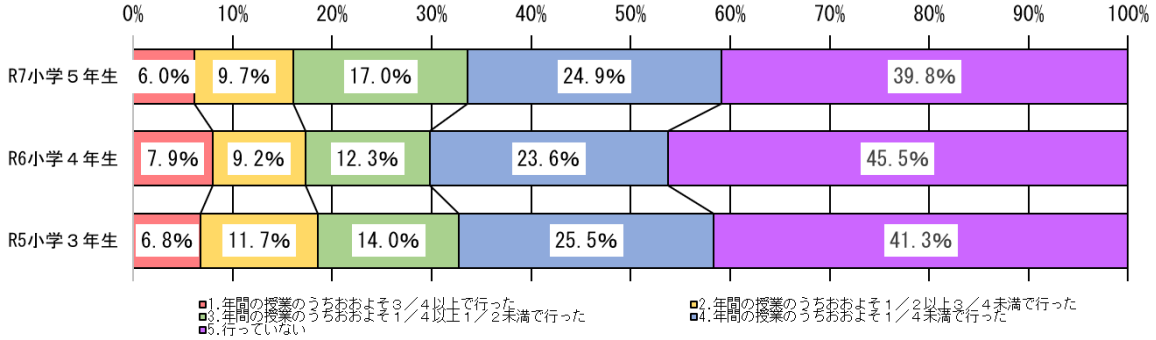


⑪『習熟の早い児童生徒に対して、少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った指導を計画的に取り入れましたか』

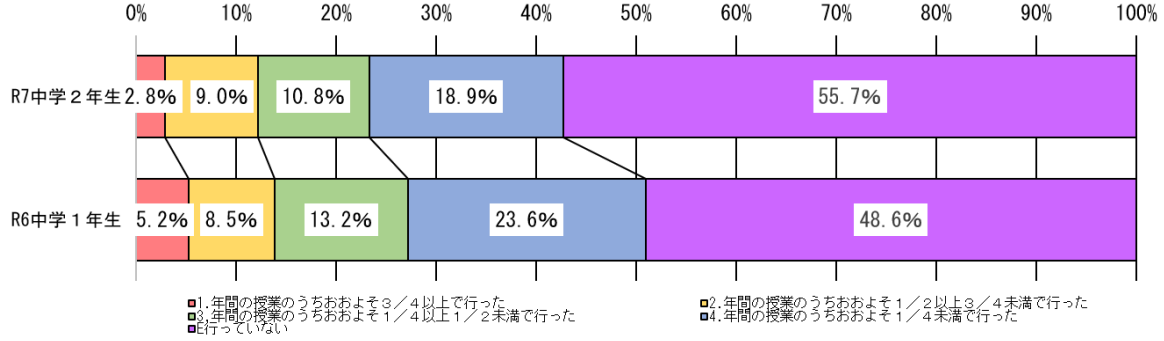
R8 小学校６年生 国語



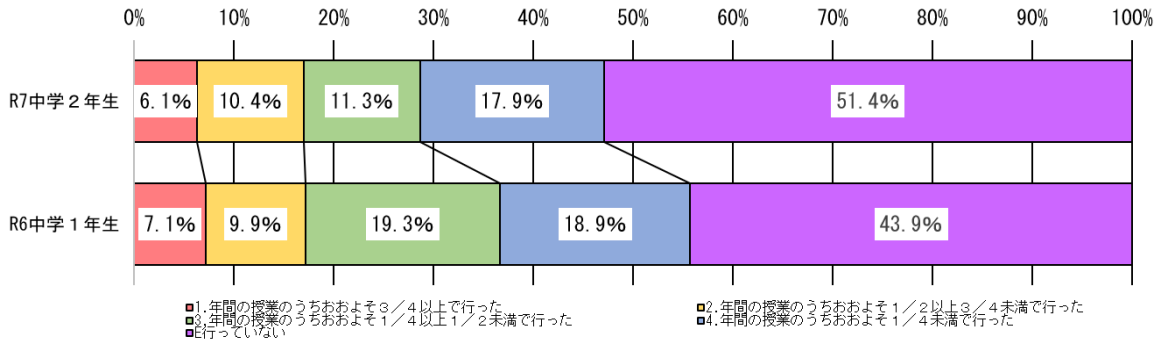
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

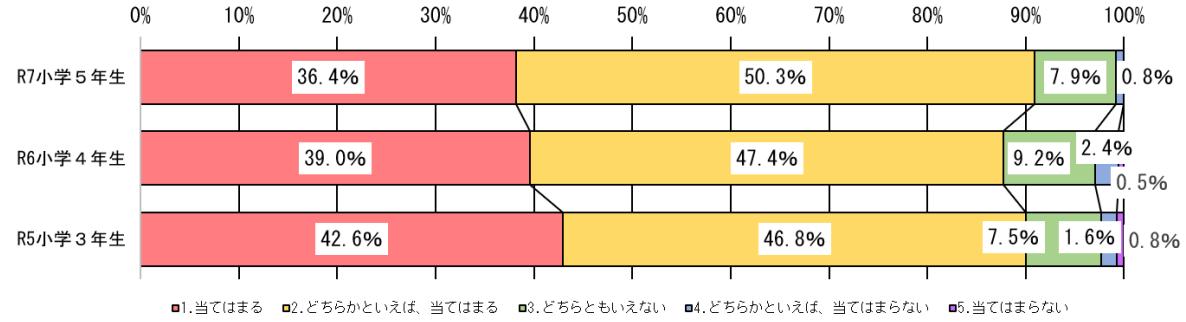


R8 中学校３年生 数学

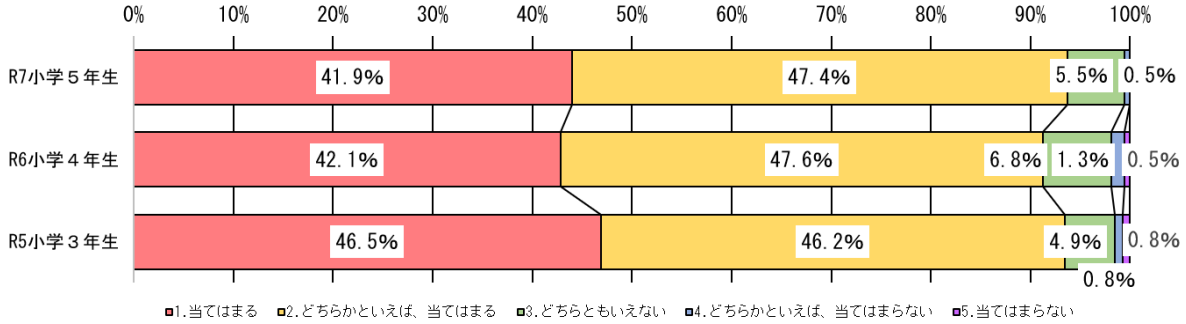


⑫『授業ごとに学習の目標（めあて）を示した後に、児童生徒自ら解決の方法を考えさせる発問をしていましたか』

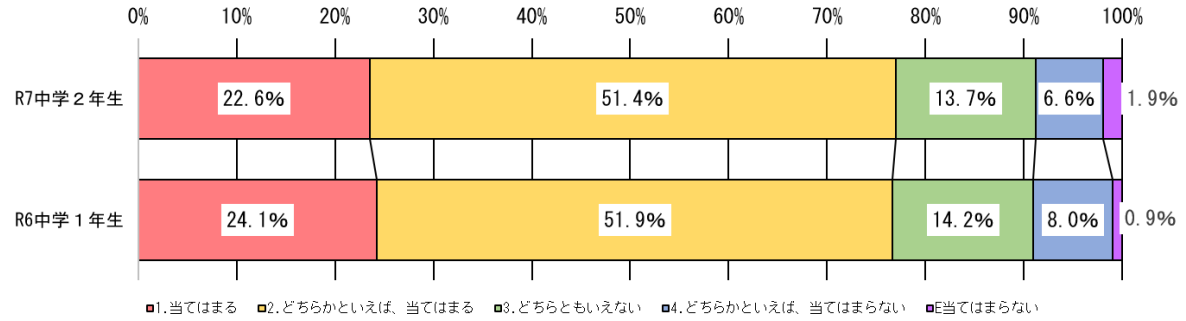
R8 小学校６年生 国語



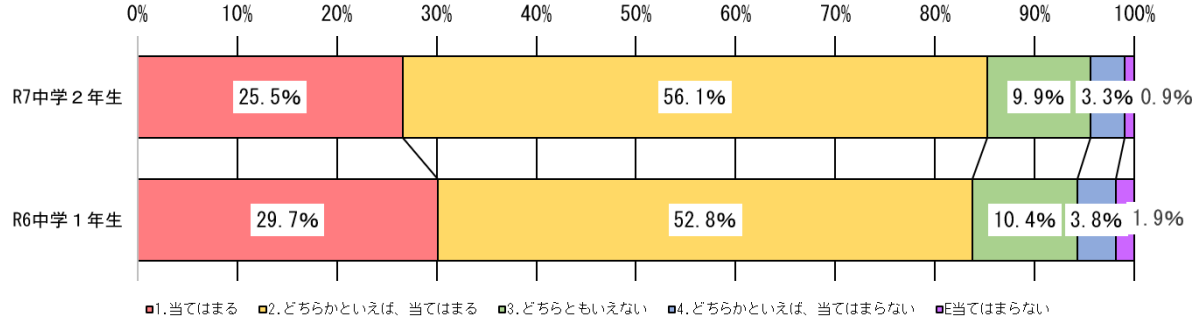
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語



R8 中学校３年生 数学



(3)調査結果の活用状況

○　ほぼ全ての学校が、個人結果票を返却する機会を捉え、児童生徒をほめたり、具体的な助言を与えたりしている。
○　調査結果から把握した内容について全教員で共有し、具体的な授業改善にいかしている学校が年々増加している。

◎　ふくしま学力調査の「一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する」という目的について、ほぼ全ての学校が理解し、教育指導や指導計画の改善に活用できていると考えられる。(①②③④⑤⑥)

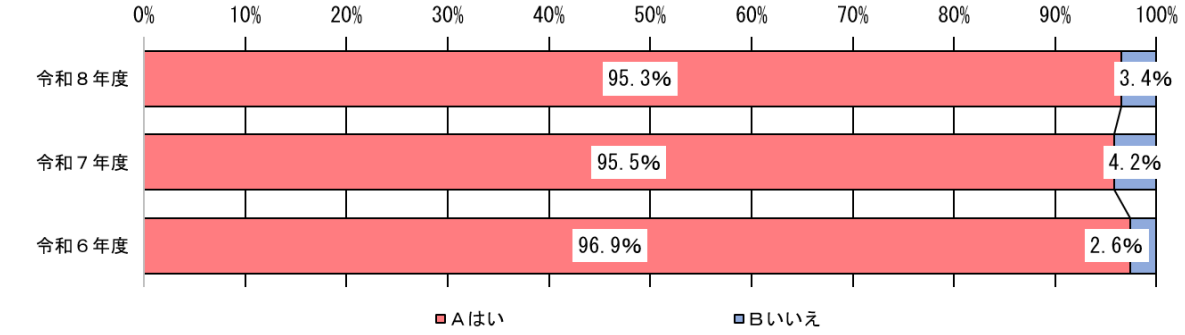
◎　個人結果票を返却する際は、ほぼ全ての学校が児童生徒をほめ、助言する機会とする学校が多いことから、児童生徒の学習意欲等の向上に役立てることができていると考えられる。(①)

◎　学力や非認知能力を大きく伸ばした教員の効果的と思われる取組を聞き取り、横展開することによって学校の強みを増やしていくことが期待される。(③④⑤)

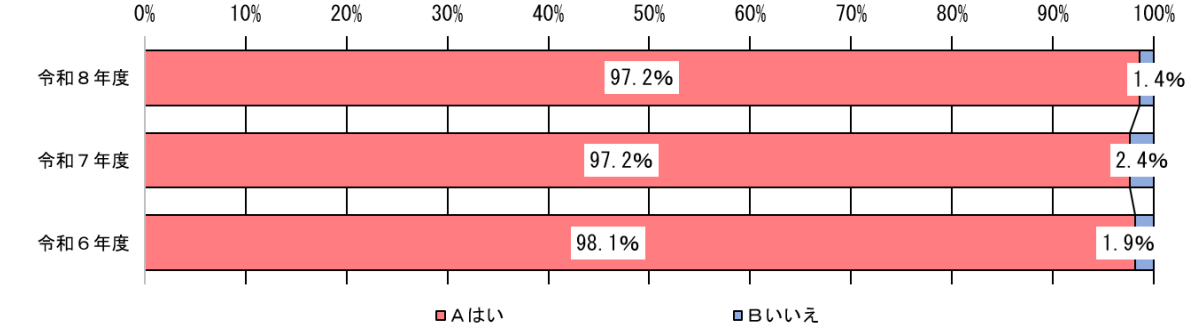
◎　データを分析し、エビデンスに基づいて指導改善が進められていると考えられる。管理職、教務主任、学級担任、教科担任、養護教諭など、それぞれの立場から多角的な分析がさらに進められることが期待される。(②⑥など)

①『個人結果票を返却する際に、ほめたり、具体的な助言を与えたりしている』

小学校

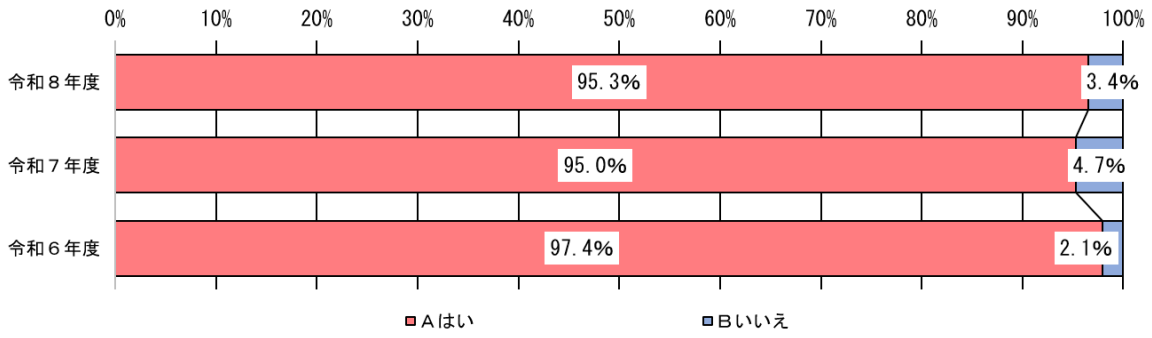


中学校

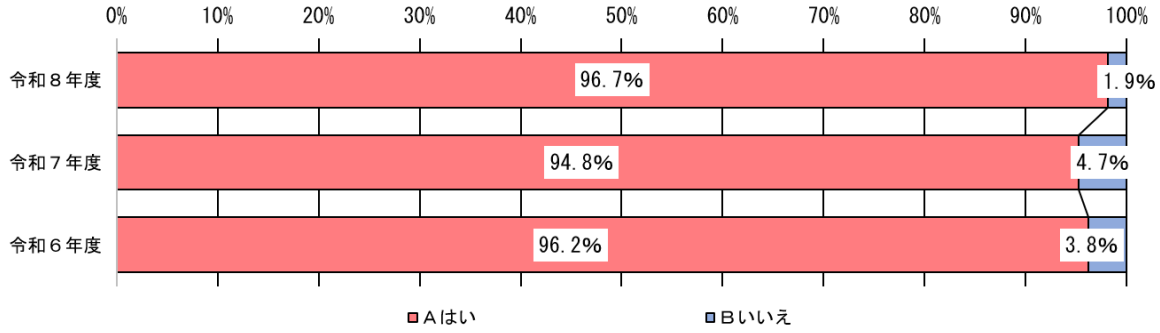


②『返却された結果帳票を用いてデータを分析、活用し、指導にいかしている』

小学校

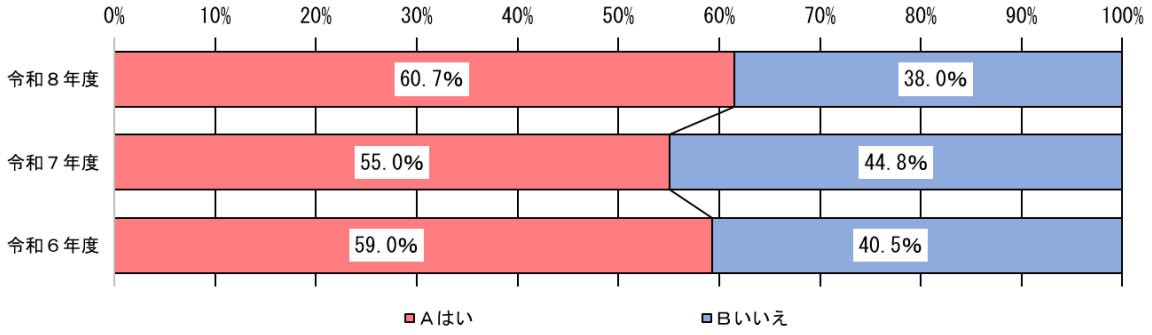


中学校

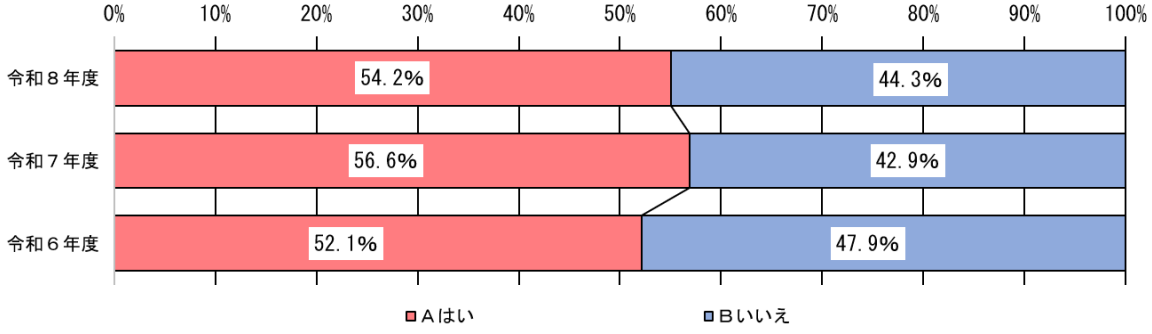


③『学力や非認知能力、学習方略を大きく伸ばした教員から、伸ばした要因等について把握するための聞き取りなどを行った』

小学校

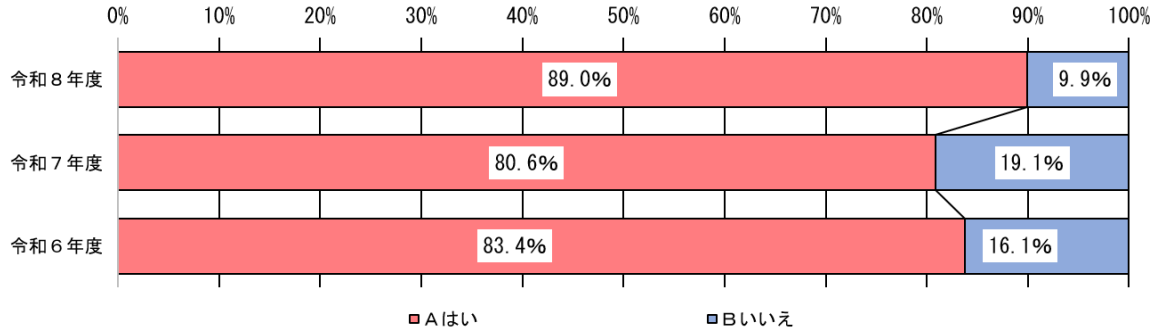


中学校

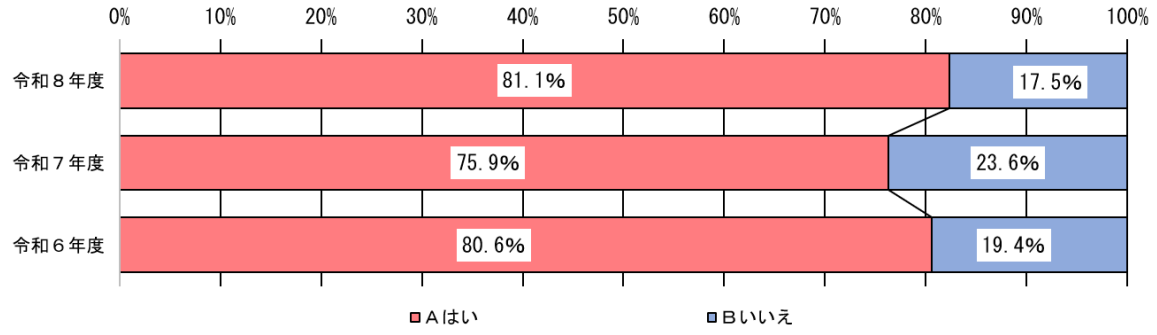


④『把握した内容について話し合うなどにより、全教員で共有した』

小学校

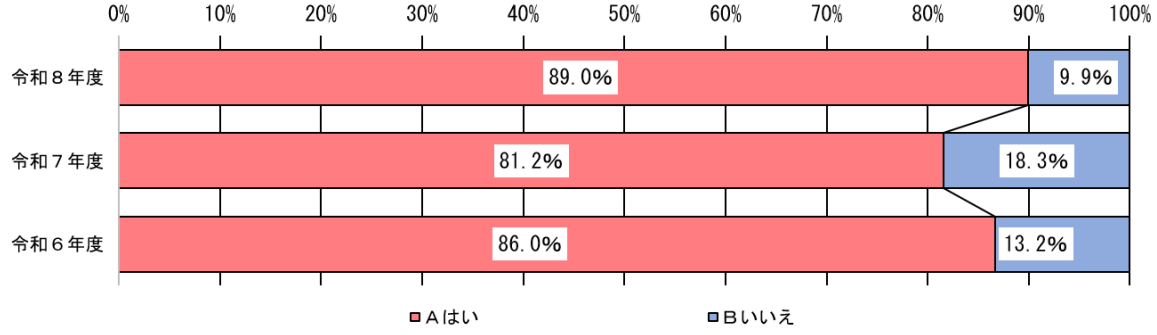


中学校

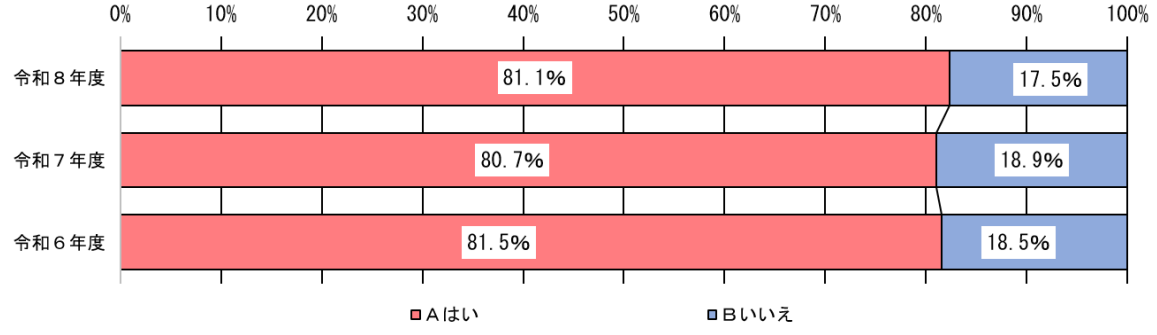


⑤『共有した内容を、具体的な授業改善にいかした』

小学校

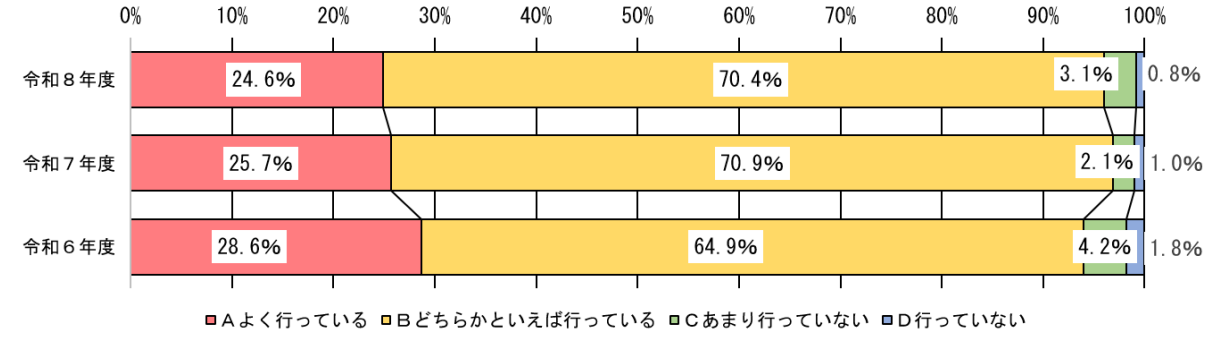


中学校



⑥『県や全国の学力・学習状況調査の結果（過去の調査結果を含む）を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている』

小学校



中学校

